

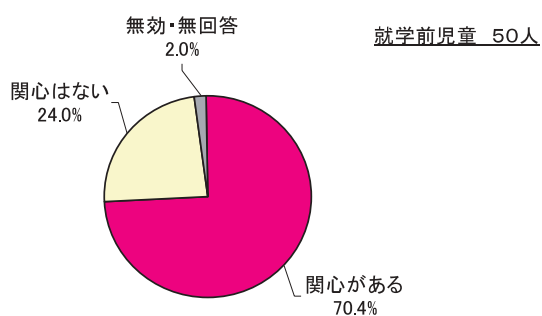
(2) 少子化・子育てに関する意識

少子化に対する関心については、7～8割の人が関心をもっていますが、「関心はない」と答えた人も2割前後あり、社会全体の課題であるとの認識にはいたっていないといえます。

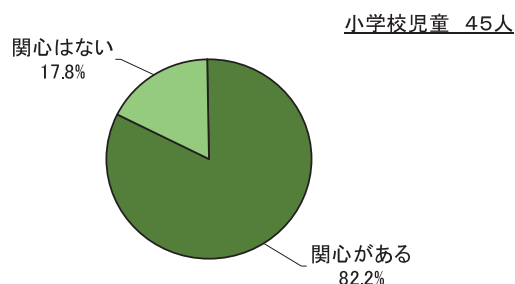
また、少子化については、6～8割以上の人が「家や近所での子ども同士の遊びやふれあいが少なくなって、子どもの成長にとってよくない」と考えているほか、将来の社会保障の負担や労働力の低下など、将来の子どもへの負担を危惧する声も多くなっています。上勝町においては、特に、少子化に加えて地理的な要因からも、子ども同士の遊びやふれあいの機会が少なく、深刻な問題となっています。

少子化の原因である出生率の低下については、「育児と仕事を両立させる社会的な仕組み（雇用条件、育児休業制度、保育サービスなど）が整っていないから」、「子どもの生活費や教育費にお金がかかりすぎるから」と考える人が多く、次いで、「子どもより自分の生活を充実させたいと考える人が増えたから」となっています。

図1-2-23 少子化への関心の有無

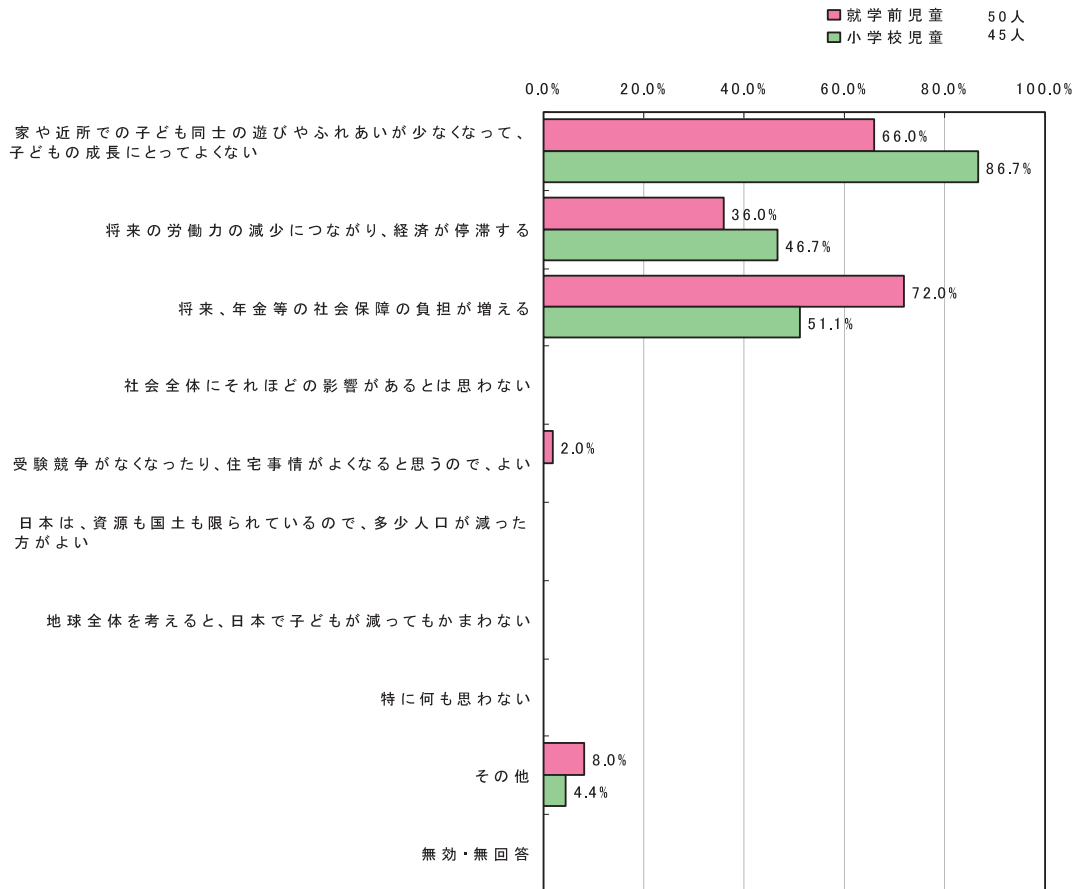


資料：次世代育成支援に関するニーズ調査(平成16年度)



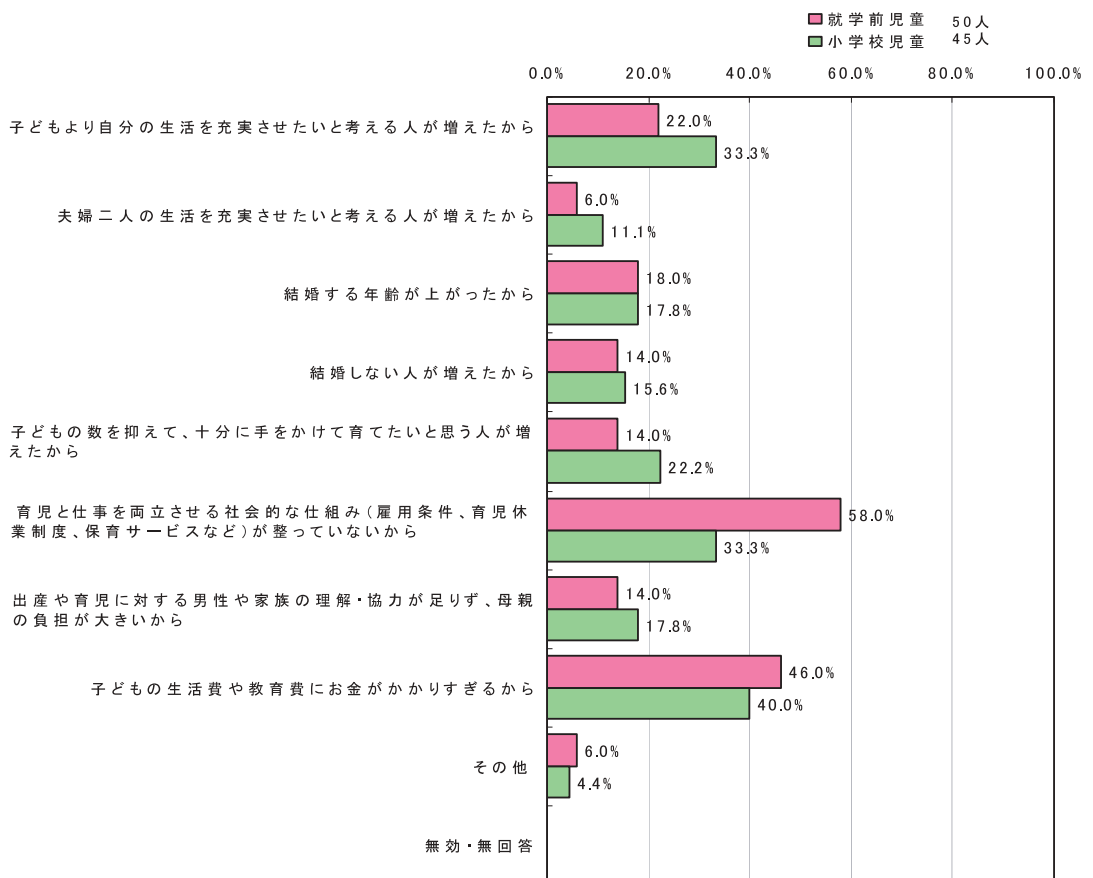
資料：次世代育成支援に関するニーズ調査(平成16年度)

図1-2-24 少子化をどう思うか



資料：次世代育成支援に関するニーズ調査（平成16年度）

図1-2-25 少子化の原因である出生率の低下の原因



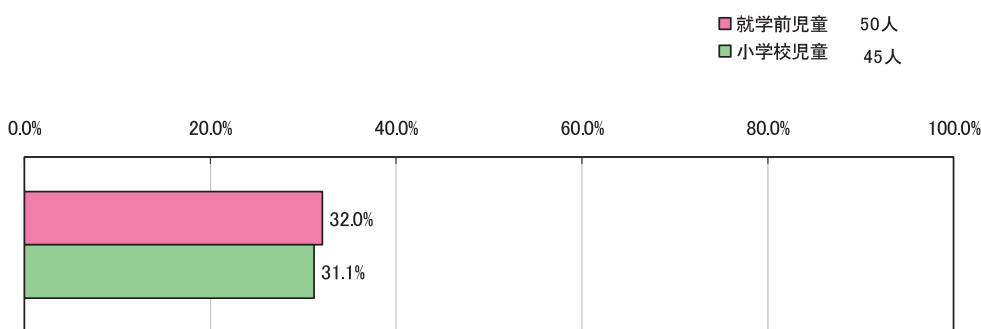
資料：次世代育成支援に関するニーズ調査（平成16年度）

理想と、実際に持ちたい子どもの数についての意識をみると、理想と考える子どもの数より、実際に持ちたい子どもの数が少ない、または、子どもはいらないと答えた人の割合が約3割となっています。

子どもを控える理由として、経済的負担、仕事と育児の両立の困難、子育ての負担感（肉体的・精神的）をあげた人が多くなっています。

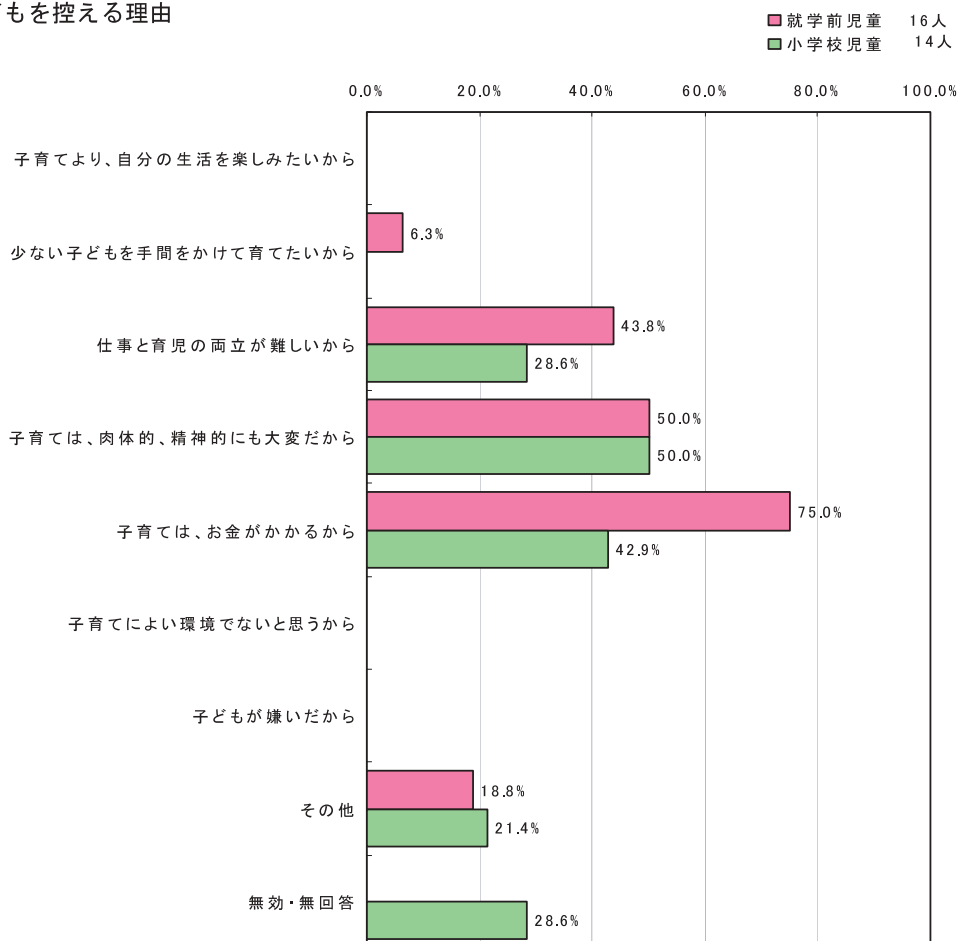
子育ての意義としては、子育てを通じての自己の成長、子どもを持つことが自然であると思うが多く、次いで家族の結びつきを強める、次の社会を担う世代を作るためなどの理由が多くなっています。

図1-2-26 理想の子どもの数より、持ちたい子どもの数が少ないまたは子どもはらない人の割合



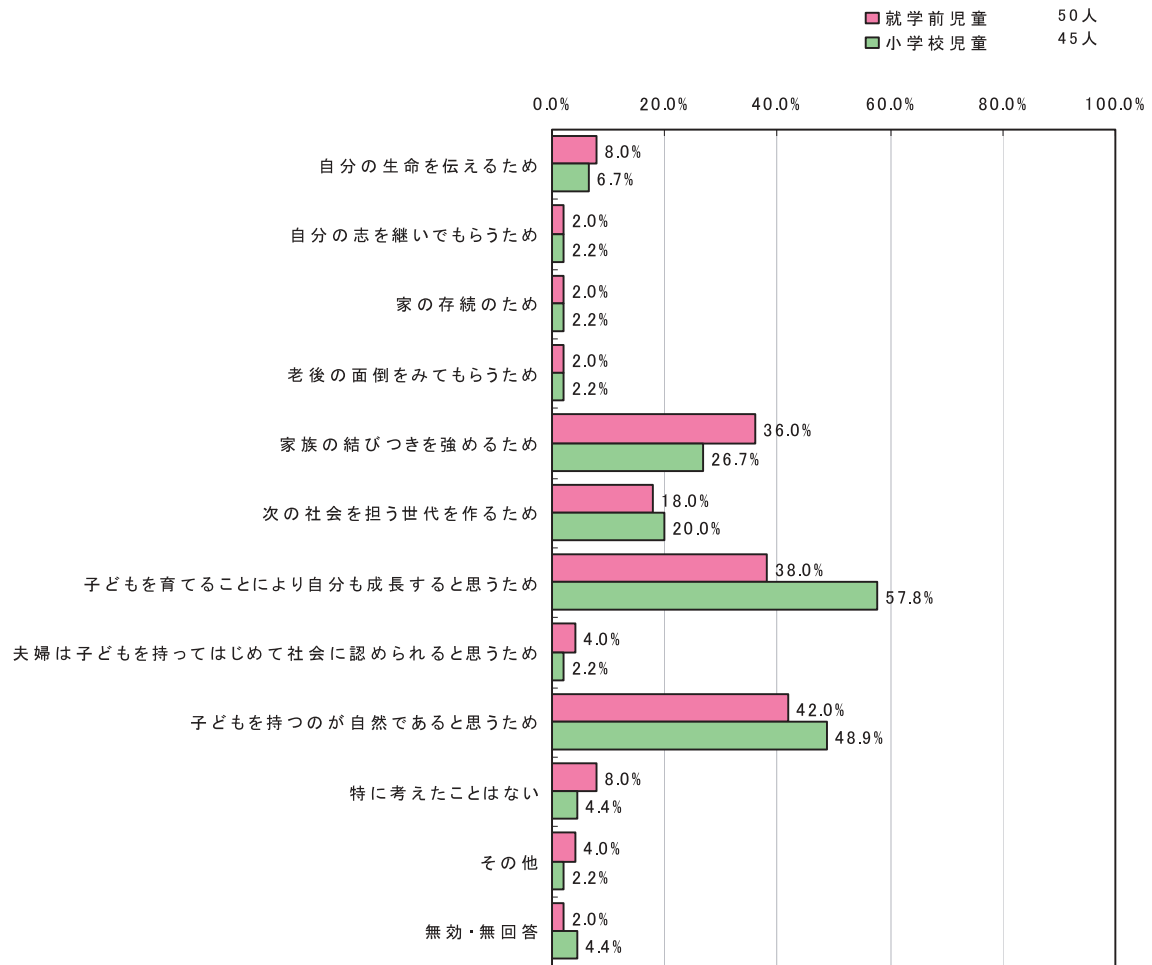
資料: 次世代育成支援に関するニーズ調査(平成16年度)

図1-2-27 子どもを控える理由



資料: 次世代育成支援に関するニーズ調査(平成16年度)

図1-2-28 子どもを生み育てる意味



資料：次世代育成支援に関するニーズ調査（平成16年度）